

無欲のタイトル

「信じられない」

遅咲きの蕎麦屋の大将

《第45回九州グランドシニア》

通算1オーバー 145

那須 敬彰（グランドチャンピオン）



蕎麦屋の大将が勝った。「信じられない。一生に一度のゴルフができた。素晴らしいゴルフでした。パットがよく入った」と那須が自画自賛する。これまでホームコースのグランドチャンピオン（熊本）ではシニア3度、ミッドシニア2度の優勝があるが、対外試合では初めての頂点である。

今大会に臨む前の先週、雨が降ったとは言え、ホームコースでのミッドシニアで「90」を叩いた。志摩シーサイドでの練習ラウンドでもパッとしない。調子は決して良くはなかった。それだけに、本人も頭の中に「？」マークをいくつも作ったのである。

一言で表現するなら「無欲」の勝利。初日も「予選通過だけは」とティーグラウンドに立ったのが、38・35の1オーバー73で首位と1打差の3位タイスタート。最終日もバーディーは取れずに6、9番とボギーが2つでアウトを38。「後ろには錚々たるメンバーばかりだし、勝てるはずもない。ただ、諦めずに、気を抜かないようにプレーしよう。ついで行こう」と心掛けた。そうしたら、10番で3m、続く11番では2・5mと連続バーディー。さらに、14番でも3mを沈めて、この時点で通算パープレーにした。ところが、17番ショートでは6Iでの第1打をシャンクして、第2打はピンまで80ヤードの難しい木越え。「ダボを覚悟した」という54度でのショットでカラーまで運び、何とかボギーに収める。この一打が初Vを導いたと言ってもいいだろう。

ゴルフは熊本県菊陽町で居酒屋を営んでいた33歳から始める。仕事上、お客さんからの誘いであった。その後、ハンディ15を手にしてから競技ゴルフにはまる。現在は、ホームコースの競技委員長を務め、仕事も夜から昼間の蕎麦屋へ変わった。4年前には「すい臓がんの一步手前」という大病を患い、4ヵ月入院。この間、クラブは握れなかったものの、筋トレに励んだ成果が出た。ドライバーの飛距離が入院前の200ヤード前後から220～230ヤードに伸びたという。「年を取るたびに上手くなっている気がする。遅咲きです。今はゴルフが楽しい」と相好を崩す。

全国大会は昨年続き2年連続。「去年は緊張して自分のゴルフができなかった。全国は怖い。九州チャンピオンに恥じないようなプレーをしなければ。とにかく諦めずに頑張ります」。昨年、香川の大会には和美夫人を同伴した。今年の広島も「牡蠣が好きな」奥さんと一緒に大会に臨む。



<志摩シーサイドCC>

